



大府市有機農業実施計画



2024(令和6)年11月

目 次

1	市町村	．．．	1
2	計画対象期間	．．．	1
3	有機農業の現状と5年後に目指す目標	．．．	1
4	取組内容	．．．	4
5	取組の推進体制	．．．	7
6	資金計画	．．．	7
7	本事業以外の関連事業の概要	．．．	8
8	みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について	．．．	8
9	その他（達成状況の評価等）	．．．	8

大府市有機農業実施計画

1 市町村

大府市

2 計画対象期間

2025 年度（令和 7 年度）～ 2029 年度（令和 11 年度）

3 有機農業の現状と 5 年後に目指す目標

（1）有機農業の現状

ア 本市の農業について

本市は、名古屋市の南側に隣接する面積 33.66km²、人口約 9 万 3 千人の都市近郊地域で、愛知用水の安定供給や大消費地名古屋に隣接する立地条件のもと、ぶどうやなしなどの果樹、キャベツやたまねぎなどの露地野菜、いちごやトマトなどの施設野菜、水稻、畜産など多彩な農業が営まれています。

県内トップクラスの産出額を誇るぶどうを中心に果樹や施設野菜は、農家による直売が盛んで、収益性の高い農業が営まれるとともに、キャベツやたまねぎは指定産地となっています。また、地域の特徴的な農産物として、大府市ゆかりのあいちの伝統野菜「知多 3 号たまねぎ」「愛知縮緬かぼちゃ」「木之山五寸にんじん」や、木の山芋など地域に根付いた特産物も生産されています。

市内には、市内外から年間 200 万人以上が訪れる JA あぐりタウンげんきの郷を始めとする数多くの直売施設があり、地域のを地域で消費する地産地消に取り組みやすい環境も整っています。

都市近郊の本市では、農地の減少や住宅等との混住化が進む中で、限られた農地を有効活用し、生産性と収益性を高めた持続可能で環境にやさしい都市近郊農業を展開していくことが重要となっています。

イ 有機農業推進の背景

（ア）環境負荷の低減

本市は、2021 年 1 月にゼロカーボンシティを宣言し、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルを目指しています。また、2021 年 5 月には国が「みどりの食料システム戦略」を策定し、農林漁業に由来する環境負荷低減の取組の 1 つとして、有機農業の取組面積を 2050 年までに耕地面積の 25%にするなどの目標を掲げています。本市としても有機農業を推進することにより、農業分野における環境負荷低減を図ります。

（イ）持続可能な農業での食の安心と食料安全保障の強化

化学農薬や化学肥料の原料、種子などは、大部分を輸入に頼っており、有事の際には、輸入が途絶えてしまう恐れがあります。有機農業の拡大による地域資源

を生かした生産から消費まで一貫した地域の循環を作り上げることで、持続可能な農業での食の安心や食料安全保障の強化につなげます。

(ウ) 農産物の高付加価値化と農業者の所得向上

都市近郊の本市では区画の小さな農地も多く、持続可能な農業の実現に向けては収益性の向上に取り組む必要があります。収益性向上の1つの手段として、有機農業への新規参入や転換による付加価値の高い農産物の生産により、農業者の所得向上を図ります。

ウ 本市の有機農業の現状

本市における有機農業者はまだ少なく、有機農業の拡大に向けて、担い手の育成・確保や、給食での活用等による販路拡大支援、有機農業の認知度向上に向けた情報発信などの取組を進めることが必要です。

本市では、2021年10月から保育園給食において、有機農業で生産された野菜の提供を開始し、その後、品目・数量を拡大するとともに、学校給食での提供も進めており、有機農業で生産された農産物を「おおぶニック」（地名の大夫とオーガニックを合わせた造語）の愛称で、浸透・定着を図っています。

元々、本市では、数名の有機農業者が個別に生産・出荷を行っていましたが、給食への提供拡大と市内での有機農業の認知度向上を目指し、市との連携のもと、2023年2月に有機農業者グループ「おおぶニックのWA（わ）」が設立されました。給食への出荷や、有機農業の担い手を育成する講座の運営、有機農業による水稻の安定生産技術の実証などを行っています。

また市内で活動する市民団体が農業者と協働でスタートした有機農業での米づくりをきっかけに、市内で取り組みが拡大しています。市民団体による除草や収穫などの援農、食育活動を通じ、地域における人と人とのつながりや支え合いにより、有機農業の輪が広がっていることも本市有機農業の特徴となっています。

【おおぶニックのWA（2024.4.1現在）】

代表 つむぎて農園 杉山修一

構成員 （生産者） 水稻6戸、野菜8戸

（市民団体） Farm to Table

（オブザーバー） JA あいち知多、大夫市農業振興課

栽培面積 水稻3.7ha、野菜2.9ha



(2) 5年後に目指す目標

今後5年間の有機農業の拡大に向けて、有機農業による水稲の作付面積の拡大と、担い手の育成に取り組み、給食での提供拡大を目指します。

ア 本市が目指す有機農業

有機農業推進法（平成18年法律第112号）に基づく「化学農薬・化学肥料不使用」「遺伝子組み換え技術を利用しない」ことを基本に、「使用禁止資材の不使用」「飛散防止措置の実施」「植え付け2年前以上の化学農薬等不使用等」を含む国際的に行われている取組水準の有機農業を目指します。

イ 成果目標（KPI）

	2023年 (令和5年度) (現状)	2029年 (令和11年度) (目標)	備考
有機農業による作付面積（水稲）	1.4ha	14ha	10倍に拡大
有機農業者数（水稲＋野菜）	6人	20人	年1名以上の増

ウ 参考指標

(7) 有機給食の実施回数

	2023年 (令和5年度) (現状)	2029年 (令和11年度) (目標)	備考
小中学校（米）	2回 (2t)	44回 (44t)	月4回 (約3割※)
公立保育園（米）	14回 (1.4t)	48回 (4.8t)	月4回 (約3割※)
小中学校（野菜）	2回	11回	月1回
公立保育園（野菜）	16回	48回	月4回

※ 米飯給食実施回数に占める提供回数の割合 小中学校 155回、公立保育園 172回
米： 作付面積の拡大により、提供回数の増加を目指します。

＜お米の必要量の考え方＞

単収 0.4t/10a とした場合、小中学校 約1t/回、保育園約0.1t/回

野菜： 提供品目の絞り込みなどを行いながら、年間を通じた安定提供を目指します。

＜提供実績のある品目＞

さつまいも、大根、にんじん、きゅうり、ピーマン、たまねぎ、じゃがいも、

さといも、ズッキーニ 等

(イ) 担い手講座の受講人数

	2023年 (令和5年度) (現状)	2029年 (令和11年度) (目標)	備考
担い手講座の受講人数(のべ)	6人	50人	2023年からの累計

4 取組内容

3の(2)の目標達成に向けて、今後5年間に取り組む内容について以下に定めます。取組に当たっては慣行農業との相互理解と相乗効果のもとに、本市らしい魅力ある農業の展開を図ることに留意します。

(1) 重点的に取り組む事項

ア 有機農業による米の生産拡大と学校給食での提供拡大

1 経営体当たりの作付面積を増加させることにより、市内の水稲面積の拡大を図り、学校給食での提供量を増やします。

イ 有機農業により生産された米のブランド化

給食等に提供する米のブランド化を図り、市内で流通させます。

ウ 有機農業の拠点づくり

「米田地区(米田町五丁目)」で有機農業の担い手育成や情報発信のための拠点づくりを行います。

(2) 有機農業の生産段階での取組

ア 有機農業者の育成・確保

(ア) 有機農業への転換の支援(米)

慣行農家に有機農業への転換を働きかけることにより、担い手を確保します。

1 経営体当たりの水稲の作付面積の拡大に向け、スマート農業等を活用した効率的な栽培手法や雑草対策等に関するマニュアルの作成、農地の集約化を促進し、地域に適した効率的で安定的な生産を支援します。



水田除草機の実証

(イ) 有機農業新規参入者の育成(野菜)

2023年度から実施している野菜の有機栽培技術を学ぶ「有機農業担い手講座」を継続し、市内で営農する担い手を増やします。

講座の研修ほ場がある「米田地区（米田町五丁目）」を修了生が相互に連携できる担い手育成拠点として活用を図るとともに、有機農地の集約化を図ります。

専業に限らず、兼業や半農半X、農福連携などによる多様な担い手を確保し、農地や農業機械の確保など、市内で営農しやすい環境づくりや支援について検討します。



有機農業担い手講座

(ウ) 新たな転換品目の検討や転換支援

本市で栽培が盛んな果樹などについて、有機栽培技術に関する情報収集を行い、新たな転換品目について検討します。

有機農業に関する入門的な講座の実施など、慣行農業から有機農業に転換意欲のある者への働きかけや支援を行います。

イ 給食等への共同出荷

物流に係るコスト削減のため、育成した担い手によるグループ化を促進し、給食等への共同出荷の取組を推進します。

ウ 地域資源の活用

資材の高騰や将来的な入手困難に対応するため、地域で排出される落ち葉や剪定枝等のたい肥化などによる未利用資源の活用や、地域資源である伝統野菜の保存・活用、種取りによる種子の保存について検討し、地域資源の活用と循環の取組を推進します。

エ 認証制度の検討

有機 JAS に準拠した国際水準の有機農業に関する知識の習得を支援するとともに、本市における独自性と客観性を兼ね備えた認証制度の導入を検討します。

(3) 有機農業で生産された農産物の流通、加工、消費等の取組

ア 給食等での提供拡大

有機農業で生産された農産物の安定的な販路と所得の確保のため、給食での提供を拡大します。

市内で生産された農産物の給食での提供を通じて、子どもたちが地元で採れた農産物に愛着を持ち、郷土愛を育めるよう取り組みます。

通常の農産物との価格差については、必要な予算を措置します。



米の学校給食での提供

イ 学校給食米等の流通

JA等を通じた学校給食米の流通や、市民団体等による保育園等への野菜の配送など、給食の拡大に係る安定的な流通体制を検討、構築します。

ウ 地域内流通と販路の確保

有機農業で生産された米や野菜の地域内流通の仕組みづくりやブランド化、市内直売所や企業等との連携、ふるさと納税の活用など、給食以外の販路の確保やマッチングを支援します。

エ 加工品の開発

規格外品の有効活用など有機農業で生産された農産物を使った新たな加工品の開発を支援します。

オ 情報発信・消費者理解の醸成

動画やSNSの活用、展示会への出展等により、本市有機農業の取組をシティプロモーションの一環として市内外に広く発信し、有機農業の認知度向上、住みたいまちとしての魅力度向上を図ります。

国の環境負荷低減「みえるらべる」の活用を促進し、有機農業だけでなく慣行農業を含む農業者の環境負荷低減の取組をわかりやすく伝える取組を推進し、環境にやさしい農産物に対する消費者理解の醸成を図ります。



みえるらべる

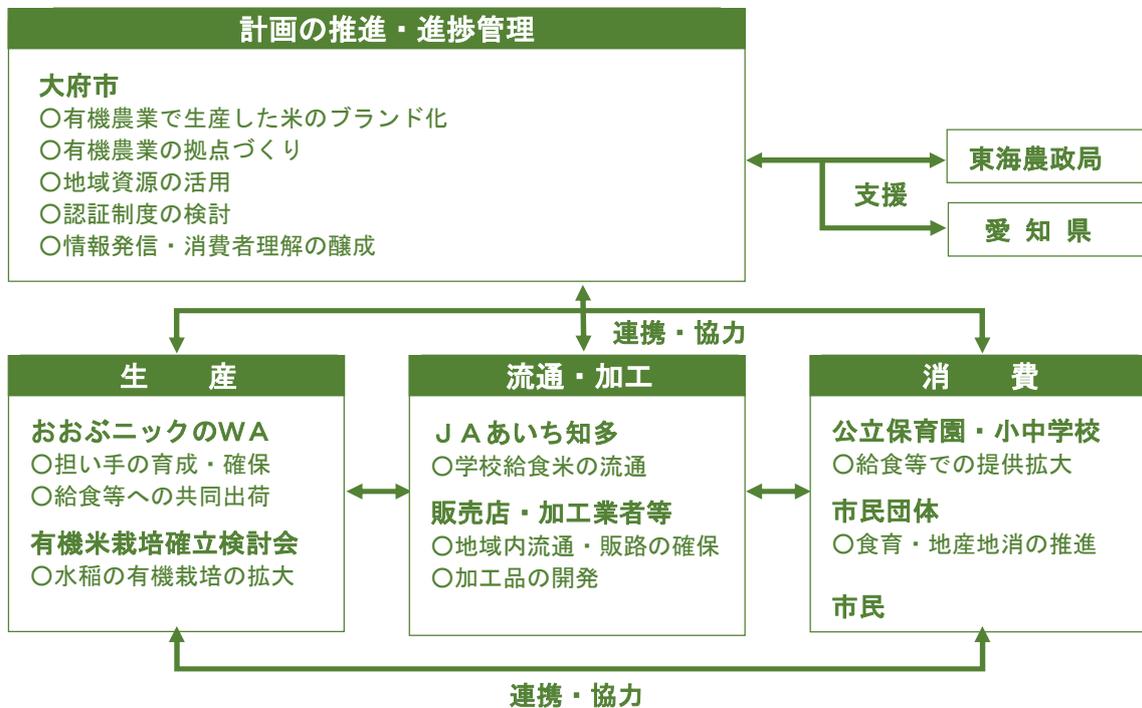
カ 食育・地産地消の推進

有機農業や環境にやさしい農産物への関心を高めるため、市で育成するキッズ野菜ソムリエとも連携しながら、マルシェやイベントなどの機会を通じ、市民と関係者の交流促進を図ります。

給食提供や地域内流通等を通じて、環境と調和のとれた食料生産と消費に関する食育・地産地消を推進します。

5 取組の推進体制

○ 推進体制図及び関係者の役割



6 資金計画

年 区分	2025年度 (令和7年度)	2026年度 (令和8年度)	2027年度 (令和9年度)	2028年度 (令和10年度)	2029年度 (令和11年度)
ア 生産段階 の取組	2,500千円 ・担い手講座 等	2,500千円 ・担い手講座 等	2,500千円 ・担い手講座 等	2,500千円 ・担い手講座 等	2,500千円 ・担い手講座 等
イ 流通・加 工・消費 等の取組	7,000千円 ・有機給食 ・販路開拓 ・情報発信	9,500千円 ・有機給食 ・販路開拓 ・情報発信	12,000千円 ・有機給食 ・販路開拓 ・情報発信	14,000千円 ・有機給食 ・販路開拓 ・情報発信	15,000千円 ・有機給食 ・販路開拓 ・情報発信
合計	9,500千円	12,000千円	14,500千円	16,500千円	17,500千円

※資金計画については、毎年度の予算手続きを経て正式に決定します。

2025、2026年度については、国事業を継続して活用する予定です。

7 本事業以外の関連事業の概要

国及び市事業を活用し、有機農業の効果的な推進を図ります。

- 環境保全型農業直接支払交付金（国）
地球温暖化や生物多様性保全等に寄与する営農活動に対し支援する事業。
- 有機農業転換推進事業（国）
新たに有機農業に取り組む農業者の取組に係る経費の一部を支援する事業。
- グリーンな栽培体系転換サポート事業（国）
有機農業の新たな栽培技術の実証等に関する経費の一部を支援する事業。
- みどりの食料システム戦略推進事業補助金（市）
有機農産物加工品開発等に必要経費の一部を支援する事業。
- 農地集積補助金（市）
地域の話し合いに基づき集約した農地の畦畔除去に係る費用の一部を支援する事業。
- 事業提示型協働事業（市）
有機農産物等の活用促進を図るため、給食食材の安定的な供給と食育に関して、市民団体と協働で実施する事業。

上記以外にも随時、取組の進捗等に応じた国事業の活用や、市独自の支援策を検討します。

8 みどりの食料システム法に基づく有機農業の推進方針について

愛知県及び県内の市町村が共同で作成する「愛知県環境負荷低減事業活動の促進に関する基本的な計画」（以下「基本計画」という。）に基づき、愛知県等とも連携し、事業達成を図ります。

有機農業の拠点づくりを進める「米田地区（米田町五丁目）」を地域ぐるみで環境負荷低減に取り組むモデル地域として基本計画に位置付けます。

9 その他（達成状況の評価等）

市が把握するデータや農業者への聞き取り等により状況を把握し、事業達成の評価を行います。